

支援から共生への道

一発達障害の臨床から日常の連携へ

田中康雄著

慶応義塾大学出版会

/2009.9

[493.937 || Ta84]

第2開架閲覧室



寅さんとハマちゃんに学ぶ
助け方・助けられ方の心理学

石隈利紀著

誠信書房/2006.11

[361.5 || I76]

第2開架閲覧室



「支援から共生への道」の著者である児童精神科医師の田中康雄先生は、今や発達障害を語る際の第一人者として全国的な有名者です。30年近い医師生活で北海道の病院や大学に関わっている期間は20数年と、道内における発達障害のある子どもの育ちを見続け、多くの保護者や医療・教育・福祉関係者に対し歩むべき道に光をともしてくだ

さっている医師です。「支援から共生への道」は、田中先生ご自身が臨床場面で経験されてきた多くのエピソードを紹介しながら、苦しんでいる人、困っている人を理解しようとするときは、治療者もこの社会で、不安をもち、苦しみながら生活しているものであるからには、同等の立場での相互の理解が必要であると訴え、「支援とは明らかに、相互作用、相互関係である」とし、さらに「それぞれが主体である己と関わりあうなかで、学び合い、育ち合い、折り合いをつけつつ存在し続ける事が“生きる”ということにつながるのではないのでしょうか」と記しています。田中先生のこの精神は、あらゆるエピソードに貫かれ、「共生」の意味する内容と、さらにいろいろな立場の人が、「相互に認め合い、支えあい、個々が勇気付けられる中でつながりあうことであり、孤立からの脱却を目指し」「つながり合っているという希望」が連携の要素であることを示してくれています。私は、この著書で田中先生の臨床哲学の奥の深さに感銘したことは勿論ですが、田中先生の人に対する「心のひだ」が伝わり、人間学を学ぶことができませんでした。

同じ「共生」を、「互助」あるいは「共助」という視点で紹介しているのが「寅さんとハマちゃんに学ぶ助け方・助けられ方の心理学」です。臨床心理士の石隈先生によるやわらかく生きるためのレッスンが書かれています。ハマちゃんが出ている「釣りバカ日誌」は、私の愛読書の一つでもある「ビッグコミックオリジナル」に連載されている漫画です。これは、北海道立特別支援教育センターに勤務し長く教育相談に携わってきました私の隠れ相談マニュアルでもありました。石隈先生は、「百人に対して百の顔で関わる寅さんは、苦戦している人一人ひとりの気持ちに共感し援助します。百人に対して一つの顔で関わるハマちゃんは、すぐに友達になる達人で、心地よい距離を保ちながら周りの人を元気にします。」と二人を分析しています。

今日の多くの学生は、「つながり合って」「やわらかく生きる」ことが苦手であったり、上手ではない様子が見受けられます。人が人とかかわることの意味と喜びを伝えてくれる両著書を、ぜひ学生の皆さんにも読んでいただき、これからの人生をより豊かに人とかかわって欲しいと思います。

井上 繁夫 先生 学生相談室

重度・重複障害のある
子どもの理解と支援

大沼直樹著

明治図書出版/2009.5

[378 || O68]

第2開架閲覧室

特別支援学校における
重度・重複障害児の教育
第2版

姉崎弘著

大学教育出版/2009.10

[378 || A49]

第2開架閲覧室

肢体不自由児の
医療・療育・教育 改訂2版

沖高司ほか編

金芳堂/2009.5

[493.9 || Sh92]

第2開架閲覧室

肢体不自由教育シリーズ1~4

日本肢体不自由教育研究会監修

慶応義塾大学出版会/2007.8~2009.8

[378.3 || Sh92]

第2開架閲覧室

発達障害のある
学生支援ケースブック

独立行政法人

国立特別支援教育総合研究所編著

ジアース教育新社/2007.9

[377.9 || Ko49]

第2開架閲覧室

平成6年6月にスペインのサマランカでユネスコによる「スペシャルニーズ教育に関する世界会議」が開催され、最終報告書の冒頭にインクルージョンについて述べられました。そこでは、地域で生活している子どもの中にハンディのある子どもがいて当たり前という前提に立って、そうした子どもたちの違いを認め、個々の教育ニーズに対応し、すべてを包み込む学校・学級・社会が望ましいという考え方が示されています。この理念に基づいて、平成13年1月「21世紀の特殊教育の在り方について ―一人一人のニーズに応じた特別な支援の在り方について― (最終報告)」が調査研究協力者会議から出されてから、普通学級に在籍する発達障害のある

児童生徒への教育の在り方が見直され、特殊教育から特別支援教育へと教育の流れは一気に加速しました。それに伴い、盲・ろう・養護学校制度が変更されたり学校教育法の一部改正等が行われ、現在新制度のもとで4年目を迎えています。

今回皆さんに推薦する本は、それぞれの障害への理解や支援の仕方、障害のある子どもへの係わり方や評価の仕方、障害に配慮した授業づくりなど、将来教師を目指して学習している人はもちろん、障害のある子どもについて障害の概要や接し方だけでも知りたいと思っている人にもお薦めの本です。今回は、特に「肢体不自由児の教育にかかわる本と重度・重複障害の子どもにかかわる本」を図書館の方に揃えてもらいました。今後も他障害(盲・ろう、知的障害、病弱)の理解にかかわる本や発達障害にかかわる本が取り揃えられていくことと思いますが、ぜひ学生の皆さんに一度手にしてもらいたい本だと思っています。

